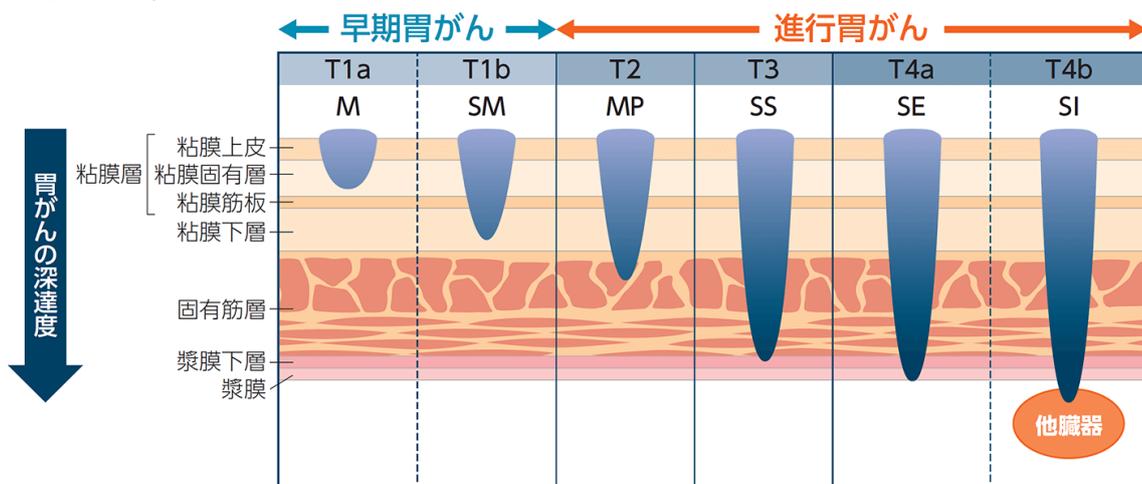


《質問》



Q1：がんは怖い。でも早期にがんを見つければ治りやすい事がわかりました。大人になったら、年一回は、最低でも健康診断を行い、がんを早期で見つけていきたいです。早期のがんとは具体的にがんができてからいつまでをさすのでしょうか？

→ご質問ありがとうございます。がんは怖いですね。大人になってからの健康管理について今から考えられていて素晴らしいと思います。がんができてからいつまで、というのは一般的には「時間軸」ではなく「がんがどれくらい広がっているか」で早期かそうでないかと表現します。例えば胃癌ですと以下の図の通りです。



(小野薬品ホームページより：https://p.ono-oncology.jp/cancers/gc/02/01_stage/01.html)

がんを見つけた時点で拡がり少なければ「早期」、がんが広がっていれば「進行」と表現します。がんが広がるスピードは種類にも依りますし、昨日できたがんなのか1年前にできたがんなのかはわかりませんので、見つけたときの状態で表現します。

Q5：緩和ケアとは具体的にどのような事をするのですか？お金はかかるのですか？心理カウンセラーやソーシャルワーカーさんはどのようにお願いするのですか？

→ご質問ありがとうございます。お薬を使ったり、食事内容を変更したり、患者さんの周囲の環境を整えたりします。希望すれば自宅で過ごすこともできますが、ご家族の疲れがあればリフレッシュのために入院してもらうこともあります。痛みを止めるために医療用麻薬を使うことが多いです。医師が訪問診療すれば、まちの薬局が患者さんの家までお薬を届けに行くこともできます。訪問診療やお薬の配達に対してお金はかかります。お薬の配達代は場合によりますが1回600円弱です。また、言葉が難しいですが「がん診療拠点病院」や「がん診療連携拠点病院」など地域でがん治療の中心となる病院があります。国で基準が定められていて、医療ソーシャルワーカーや作業療法士、言語聴覚士（この方々を心理カウンセラーと表現する場合もあると思います）などを含めチーム医療にあたる事が求められています。治療のために受診していて、希望すればその病院にいる方へ相談ができます。



《感想・意見》



♥ がんになる人が多い世の中だから病気になっても暮らしやすい社会制度や周りの心がけが大切だと思った。

♥ 4人いる祖父母のうち3人をがんで亡くしています。遺伝的には仕方ないですが自分でできることを少しでもやりたいと思っています。他人事でないとわかっていても両親はがん検診に行っていないので強く勧めたいと思う。

緩和ケアは、素晴らしいサービスだと思います。ですが、助かるすべがない人の痛みを和らげるだけだと分かっているいつも見守る私たちからするととても寂しいです。

♥ 母の友人のがんで亡くなりました。母はその友人と亡くなる2週間前に遊んだばかりだったのでこんなにすぐに弱ってってしまうなんてと驚きました。それにおばのがんになりましたが、手術して治りました。がんは早く見つけて早く治せば生きていけるので、将来子供や仕事で忙しくてもがん検診を受けようと思います。

♥ がんは、精神・身体の両方に負担がかかることを知った。特に現在でもがんに対する印象が、人を知らぬ間に傷つけてしまうことを知ったので、相手の立場を尊重したコミュニケーションを心がけ精神的な支えになれるよう意識していきたい。

♥ 人間ドックを受けて欲しいと両親には何度も言ったことがありますが、やはり時間がなくて忙しいのでまだ行けていません。それを理由にして行かないことで早期発見ができないでは遅いのもっと親にしっかりと伝えたいし、がんについて知ったからこそ他の人にも声をかけていきたい。

♥ 「はなちゃんのみそしる」という本を読んだことがあります。その本は乳がんになった女性が闘病中に子供を授かったりして頑張っている内容で髪の毛が抜けるのは知っていたのですが、吐き気が出たりするのは初めて知りました。がん＝治らないものと思っていたのですが治療で治ることも知りました。2人に1人ががんになると知り、他人事でないと思いました。もし家族や友人のがんになってもさえられるような知識を身につけたいと思いました。

